

令和6年度（2024年度） 今治北高校大三島分校 シラバス

教科	地理歴史	科目	地理探究	学年	第2学年	類型	II型理系
単位数	2単位	教科書	新詳 地理探究（帝国書院）				
補助教材							

学習目標	地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因を捉える学習を通して、現代世界の諸事象の地理的認識を深めるとともに、系統地理的な考察方法を身に付ける。
------	--

学期	月	単元	学習内容・単元の目標	定期 考查
1 学期	4月	第1章 自然環境 序節 地球環境と人間 1節 地形	・地形、気候、生態系などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。	中間 考查
	5月	2節 気候 3節 日本の自然環境	・地形、気候、生態系などに関わる諸事象について、場所の特徴や自然および社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球の課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。	
	6月	4節 地球環境問題	・自然環境について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究する。	
	7月	第2章 資源と産業 1節 農林水産業	・農林水産業は、自然条件の影響を受けるとともに、社会条件の変化に伴って変容してきたことを理解する。	期末 考查
2 学期	8月	〃	・農林水産業の分布や発達には、どのような傾向や規則性がみられるのかを考察し、表現する。	中間 考查
	9月	2節 食料問題	・世界のエネルギー・鉱産資源の分布には、大きな偏りがあることを理解する。	
	10月	3節 エネルギー・鉱産資源	・エネルギー・鉱産資源は、どのようにして生活や産業に利用され、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているのかを考察し、表現する。	
	11月	4節 資源・エネルギー問題	・これまでの資源・エネルギー問題は、限りある資源をどのように利用するかという考え方であったことを理解する。	
	12月	5節 工業	・今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、どのような考え方が必要なのかを考察し、表現する。	期末 考查
3 学期	1月	6節 第3次産業	・経済が発展すると、物やサービスへの需要が高まるため、第3次産業が主力の産業となることを理解し、第3次産業の現状について考察し、表現する。	学年末 考查
	2月	第3章 交通・通信と観光、貿易 1節 交通・通信 2節 観光	・交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。	
	3月	3節 貿易と経済圏	・交通・通信、観光について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。	

学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義型の授業を中心としたうえで、動画や画像などの資料を活用する。 ・グループワークやペアワークの時間をとり、生徒が主体となって考える時間をつくる。
-------	---

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深めている。調査、討論、発表などの探究的な学習を通して、現代世界における日本の現状について理解することで、望ましい将来像についての認識を深めている。	地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うようとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。よりよい社会の実現を視野に、世界諸地域や日本において見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価方法	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考查		